

★神戸っ子の国際派がガイドする★

海外旅行を 10倍たのしむ

★アジアの十字路

シンガポール

洪川 撰也（ダイナス・ワールドト
ラベル株式会社 支那人）

大きな交差点に立っていると、大きな車、小さな車、白い車、赤い車、いろんな種類の乗物が往来する様に、まさにシンガポールは種々の民族がそれぞれに独自の伝統文化を持続しながらシンガポール独自の文化を創造している国である。従ってその「食べる」という食文化はその国を訪れる人々にとって、まさにつきぬ喜びを与えてくれる。せっかくその国を訪れた人は、その独特の楽しみを味わなければ大いに損をすることになる。

まず、トロピカル・フルーツの豊富なこと、まさに果物天国。一年中露店や市場に山と積まれたカラフルなエキゾチックな果物は、是非みなさんお試し願いたい。

ババア、濃いオレンジ色のラグビーボールのような



空港到着ホール前

果物。黒い種子をとり、レモン汁をかけて食べると、な

んとも美味しい。ああシンガポールにきたなアと実感する。マンゴーの外側は、黄色か緑色だが果実はオレンジ色で、まん中に大きな種が一つある。果肉はやわらかくてたいへん甘い。珍しいのがスター・フルーツ、黄色か緑色の果物で、スライスすると星の形になる。水分が多く、あまり甘味がないのでどが渴いた時においしい。

その他「ブア・ドゥク」「ランプター」「ドリアン」「マングステイン」「ジャックフルーツ」「チャンパーダック」「ジャンプ・バトウ」等々、あげればきりが無い。これらのものは、至って手軽に露店等で一つでもまた物によつては、一切れでも買えるから、いろんなものを試してみるのが、旅の楽しい思い出になるでしょう。

食べることといえば、シンガポールに移住したさまざまな民族が故国の料理を代々受け継いでいるため大変、バラエティに富んでいます。料理のバラエティもさることながら食べる場所もよりどりみりです。

ホーカーと呼ばれる屋台を集めた野外のフードセンタ―や、その他いろんなアジアの料理や西洋料理の高級レストランから安くてうまい気軽な食堂まで各種各様の飲食店が揃っています。またシンガポール料理を何種類か揃えた冷房のない小さな食堂も旅の思い出に一見の価値があります。

なんととっても一番普及していて美味しいのは中国料

理。中国料理の代名詞に使われる程美味で知られる広東料理のみならずシンガポール人が大好きな福建麵をはじめとする福建料理、ガチョウの蒸し煮やバーロールの潮州料理。そしてベキン・ダックで有名な味付けはおとなしい手のこんだ北京料理。

海南島の料理や台湾料理、上海料理（うなぎの蒸し煮や上海麵は、ぜひ味ってみたいもののひとつ）。等々。

朝からの市内観光の後の空腹に手軽でいくらでも食べられるのが飲茶料理。種類は豊富で小さなセイロに入ったものから、何日も時間をかけて、じっくりと煮込んだ栄養価の高いスープまで心ゆくまで自分の好みで満腹になるまで楽しめるでしょう。

シンガポールを訪れる人々の最も印象に残るのは、フードセンターでの食事でしょう。ニュートン・サーカスの広々とした野外センターから、小規模ながら味は最高の「ラサ・シンガプーラ」まで、フードセンターの種類もさまざま。100年近く前に建てられた美しい八角形のテロ・アエア・マーケットも、今ではフードセンターとして大好評です。

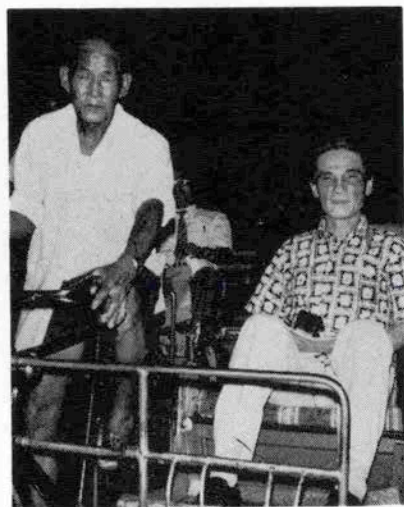
どのフードセンターにも共通する特徴は、味がいいことと安いこと。一人\$5〜\$10もあれば、数皿のご馳走を楽しんだ上に、フルーツのデザートまで味わえるでしょう。屋台料理で特に人気があるのは、エビや豚、モヤシ入りの福建麵、海南風のチキンライス、魚ダンゴ入りスープ、ココナツ・ミルクをかけた香り高い麵とシーフードの料理「ラクサ」などです。フード・センターで



タイガーバームガーデン前にて

は、好きな屋台から好きな料理をとれるので驚く様な安い値段で、さまざまな料理が楽しめるわけです。麵のいい匂いや、炭火の上で焼けるサターの香ばしい匂いをかき、おそろしいようなスピードでカキ入りオムレツを焼き上げる料理人の手さばきとその活気に満ちたフンイキとは一種独特のゴウフンをかきたてること間違いなしでしょう。

最後におすすめしたいのは、新鮮な魚貝類を独特の調理法で大胆に調理した海鮮料理です。空港から市内に通じる東海岸のハイウェイの畔りに軒を並べて大規模なレストランがありますが、あの南国の星を眺めながら、次々に出てくるエビやカニと格闘している人達、グループで乾杯の氣勢をあげている地元の若い人達、熱い直火で大きなエビを焼き上げている煙りと炎、どれをとっても、あのシンガポールの国の驚異的發展のエネルギーの源は、この辺りにあるのかなアと感ずります。これこそ是非一度お試しなつてほしいと思います。いずれにしても、シンガポールは自由と活気に満ちた若々しい国です。我国から訪れる人達も、その人々の気軽に友人になれる気楽さと、その情熱に接して、その文化を理解し、とけ込む事が出来るのではないかと思います。是非一度シンガポールをお訪ね下さい。



名物「トライショー乗り」

★神戸っ子の国際派がガイドする★

海外旅行を 10倍たのしむ

★ブルーグラスカントリー

金井 譲治

△帝真貿易株式会社常務取締役△

普通皆さんが「アメリカ」と聞いて思い浮かべるのは、摩天楼がそそり建つニューヨークやハイウエーが交錯するロサンゼルス、そして青空の下輝くゴールデンゲートブリッジのあるサンフランシスコでしょう。しかし、私が今から紹介するのは、南部のケンタッキー州にあるレキシントンという町です。



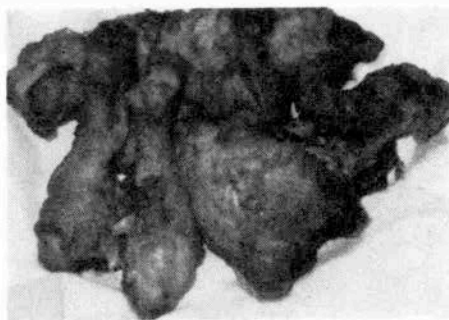
この町の人口は約三〇万人で、ここから北一〇〇kmには、オハイオ州シンシナティが、南約一〇〇kmには、テネシー州ナッシュビルがあります。この町の周辺には世界一優秀なサラブレッドを飼育する牧場がたくさんあり、ダービーで優勝した馬は五〇頭を数えます。入札のシーズンになるとサウジアラビアや中近東、ヨーロッパ、アジア等の各国からたくさんの人々がこの町を訪れます。そのため、ロールスロイスやキャデラックといった高級車の保有台数は人口比すると全米一だということです。

アメリカ人たちはこの町を「ブルー・グラス・カントリー (Blue Grass Country)」と親しみを込めて呼ん

でいます。緑色というよりもむしろ青色をした広大な牧場を馬が駆け回る様子は、狭い日本に住む私達にはうらやましい限りです。

町の郊外では、日本でも有名なマールボロやウインストンといったタバコの葉っぱの栽培を行っています。また、日本の企業も進出し始め、トヨタの組立工場ができたために、現在では約千人の日本人が住んでいるそうです。

次にこの町のおすすめ料理というと言っても、あの白いヒゲと人なつこい目で日本でもすっかりお馴染



日本でもお馴染みフライドチキン、ケンタッキーがふるさと

みのカーネルサンダース氏の出身州だけあって、フライドチキンです。南部のフライドチキンは、北部のものに比べると、香辛料をふんだんに使い、クリスピーでおいしいのです。これと南部の代表的なコーンブレットにはちみつをたっぷりぬって

食べるのが私のお気に入りです。

チキン以外にこの町には最上のビーフ・ステーキを食べさせる店がたくさんあります。その中でも特に、「コロンビアステーキハウス」は有名で週日・週末を問わず夕方になると長い列ができ、予約なしでは入れません。この店のオリジナルバターとガーリックをのせてオーブンで焼く五〇〇gのビーフステーキをどの客もペロリと平らげてしまいます。

ここではこれに、丸ままのポテトを四つに切った大きなフライドポテトを添えて出してくれます。これらを凍るぐらい冷くひやしたビールで流しこむと気分はすっかりアメリカンです。それと私がぜひ、おすすめしたい



緑が広がる「ブルーグラスカントリー」

のは、羊の精果に香辛料とパン粉をつけて揚げる「ロッキー・マウンテン・オイスター」で、何ともいえず美味です。これを食べに全米各地から人々がやって来るといっても過言ではありません。

その他、南部の人たちの好物のキャット・フィッシュ（なます）の料理で、とうもろこしの粉をまぶし、ディープ・フライにして、秘伝のタルタルソースをつけて食べさせる「キャット・フィッシュ・ジョーンズ」という店にも立ち寄ってもらいたいと思います。

お腹がいっぱいになったら、次にゆっくり音楽でも聴いてくつろぐというのはいかがでしょう。ダウンタウンの中心部に、古い建物を修復したオペラハウスがあります。

シーズン中には週二回、ここでオペラの公演が行われ、ゲストとして欧米のオペラスターたちがやって来て、人々の耳を楽しませてくれます。ここではまた、レキシントン・フィルハーモニー・オーケストラがコンサートを開きます。名前はあまり有名ではありませんが、優秀な音楽大学を卒業した音楽家たちが、六・九月には屋外コンサートを開きます。

娯楽施設として他に、レキシントンの南に馬の博物館があります。ここでは、あの有名なケンタッキー・ダービーの様子を大きなスクリーンで映しています。そして、いろいろな馬具も売っているので、ショッピングも楽しめます。

レキシントンへ行く交通手段としては、アトランタ、ダラス、ヒューストン、そしてシカゴからノンストップ便が運航されています。また、シンシナティからも車でわずか四十分です。

とにかく、一度この町を訪れて一味違った、アメリカを満喫されてはいかがでしょう。

★神戸っ子の国際派がガイドする★

海外旅行を 10倍たのしむ

★香港の人間、入門指南！

白杵 百合子 ハフリージャーナリスト

香港好き人間と嫌い人間とは、両極端の反応を表わすようだ。嫌いとなると一分、一秒も早く逃げだしたくなるゴミ箱香港。ところが好きとなると、しょっちゅう行きたくなるし、住みつきたくもなる東洋の真珠香港といった具合で、マアマとかポチポチといった言葉は、この国には似合わないらしい。

香港大好き人間としては、まずイミグレーションの表情一つ変えず、眼鏡の奥からジロリと一べつする入国係官を見ただけで、緊張感と共に、なんともいぬ自由な思いが、全身を駆け巡ってくる。

迎合しない香港は、自分の足と運をたよりに旅するに限る。

どこの国へ旅してもいえることだが、本当に楽しむには異和感なく溶けこむこと。要は、その国的人間になればいいわけ。では、香港の人間になるには……。

ポイント(1) 服装について。ジーパンにTシャツといったラフなスタイルで。ブランド物で身を固めたい御仁は、スリさんのマークに覚悟を。

ポイント(2) 歩き方と表情について。背筋を伸ばして、かかとか踏み出し外また風に足早に歩く。表情は無表情に意味もなく笑みを浮かべよう。ついでながら、眼

鏡はインテリの勳章（栄えある香港大学生の約八割がかけている）。

ポイント(3) バッグの持ち方について。常に体に触れている状態にしておく。

ポイント(4) 移動は、バスや地下鉄で。バスはワンマンで前乗り後降り、入口の正面の料金ボックスに所定の料金が大きな赤い字で表示してある。泊っているホテル近くのバス停から終点まで行つて、また、もどってくるなどすれば街の雰囲気、人々の有様も身近に感じられ土地カンの訓練によい。地下鉄は五〇HKドル（約千円）のチケットを買っておくと便利。そして、自分の足で歩くこと。それにはあらかじめ地図を頭のなかに入れておき、目印になる建物なり看板などを、自分なりにみつけてお



キャットストリート（アンティークの店がたくさん並ぶ）の周さんの店の前で。周さんは私の香港指南の大先生（左筆者）。

くと迷うことは殆どない（よほどの方向オンチは別）。
思わぬ小路で、香港人の生活に直に出逢えること請け合
い。

ポイント(5) 食生活について。グルメ天国、香港では
大酒楼から大牌檔まで、不味いというものには、あまり
あたらないが、やはり人の出入りの多い店を選ぶこと。

言葉が出来ずとも、そこは同じ漢字民族、メニューを見
て大体の見当をつけて注文するか、店によって看板料理
があるので、周りを見渡して堂々と指し示す。

近頃では、カフェテリア形式も増えているし、店を捜
すのも指し示すにも疲れたら、マクドナルドかセブンイ
レブンへどうぞ。

ポイント(6) 言葉について。香港では広東語だが、日本
人が話せるまでには、かなりの年季を要するようで、広
東語しか話せない人には、漢字の筆談とゼスチャーで。



なんでも商売になる香港。おばあさんは、輪ゴムと古着を売っている（ガラクタ市で）。

基本は英語で、自分の意思を必ずわかってもらおうという
姿勢でやれば、必ず通じる。

ポイント(7) 買物について。日本人観光客が多く出入り
するブランド物の店は無理だが、必ず値切るように。値
切るのがヘタなお方は、新聞のセールの広告をしっかり
見ておく。香港人は衝動買いは決してしない。見比べて
吟味する根気を見習っては。

蛇足ながら、目抜き通りに店を張る観光客用の土産物
屋には、しばしば「免税品店」という看板が掲げられて
いる。自由港の香港には、そもそも関税というものはな
く、香港の店は全て免税店。なのに、どういものか錯
覚をおこされた我が同胞の皆様が、喜々として買物をさ
れておられる。ここでは、だますよりだまされるほうが
分が悪い。商売は勝敗。

ポイント(8) お金について。他国ではトラベラーズ・チ
エックの両替率がいいものだが、香港では現金が一番。
そして、外国為替公認レートがなく、各銀行によって交
換率に差があり、恒生銀行が日本円に対しての率がよ
い。大金を持ち歩かぬ、人目にお金をさらさぬなどは、
どこの国とて常識。

ポイント(9) 安全性について。犯罪は、人間がいる以
上、どこでも起きるもので、香港だけが特別ではない。
旅行者としては、スリに気をつけホテルも、人の出入り
をしっかりとチェックしてくれるところを選ぶように。

ポイント(10) 新聞とテレビの活用について。世界の情報
都市香港ならではのニュースを仕入れることもでき、香
港の動きもよくわかる。

まあ以上が、香港的人間への入門といったところだろ
うか。

香港は、ぬるま湯につかっている日本人に刺激を与え
てくれる国。中国返還まであと十年と、決められた時間
のなかで決められた場所で、たくましく今日を生きる人
々の姿に、国という重みを改めて考えさせてくれる。

★神戸っ子の国際派がガイドする★

海外旅行を 10倍たのしむ

★普段着の海外旅行

森本

隆

△神戸トップナッチカンパニー・専務取締役▽

円高のおかげで、海外旅行のメリットは大きくなり、気軽に海外旅行に行けるようになって来ました。大阪空港到着ロビーが最もにぎやかになるのが夜8時〜9時、一時間の間に5社の航空機が着き、続々と降りて来る時間。皆さん多くのおみやげを持ち、ほっとした顔、疲れた顔いろいろですが、出発の時よりは一般的に明るい雰囲気があります。やはり、海外旅行はストレス解消の手段にもいいと思います。全く違う言葉、全く違う文化に遭遇する緊張感と、日常から解放されて、非日常的体験のいい機会でもあります。

さて旅行するとなると、どこがいいか、まずアジアが一番身近かで、普段着のままちよつと香港までという感じです。東南アジアは今まで男性が遊びに行くイメージがありました。最近エイズの心配もあってか、やや減少気味です。かわって女性の旅行者が増えています。

一番近い韓国、大阪から一時間半でソウルに着き、一日3便出ています。航空券代は五万円前後、国内旅行より安く行けます。まだ一般的にイメージが悪いようですが、最近のめざましい発展をしているソウルはオリンピックまで一度行くべきです。ソウルは今年学生デモとか、労働組合のストとかで危ない時期もありましたが、

今は問題が落着いて安定しています。ソウル空港に着けば、まず靴磨きのコーナで(一階到着ロビーの奥で)はいっている靴を磨いてもらおうと、見違える程きれいになり、料金50円程、市内まで車で約40分、途中漢江の中州にそびえる大韓生命ビル76階を見上げながら市内へ、ロッテホテルの近くが市の中心、明洞の繁華街も近く、近くにサボイ、ロイヤル、キングセジョンのホテルがあります。

明洞は土曜・日曜は大阪の心斎橋よりも混雑し歩きにくい程人が集ってきます。新しいファッションの街でもあり、バーゲンセールのときを狙うとかなり安い。少しはなれてイテウオンのショッピングストリートも海外で有名。近くにアメリカ軍基地があり、輸指向けの卸し商が集ったこの街は、特にJINDOの毛皮ショップをはじめ皮革製品、繊維製品は格安、日本の1/4ほどの価格。

韓国は輸入品には関税が高くつき、輸入のジーンズは高いが自国製又はコピー商品は非常に安い。また有名ブ



誰もいないオリンピックスタジアムはひたすら巨大である。(韓国・右端筆者)



シンガポールのタイガーバームガーデンにて

ランドのコピー（偽物）はここでは常識、ダンヒル、カルチエの時計が6千円前後、ルイビトンの鞆などもあふれている。香港よりも今物価は安い。食べ物はお店焼肉が最高、一口に焼肉といってもブルコギ網焼き専門店とジンギスカン焼肉とに分れる。炭火のコンロで焼く焼肉で、ハサミで肉を切りながら焼いてくれるところがいい。ファミリールレストラン風の店よりも、座敷で食べる少しきたない店の方がおいしい。ただし、あまり上等の服を着ていくと、汚れるので気をつけて下さい。一人2千円〜3千円の予算で十分。一番安いお酒はマッコリ、白色したドロブク、ビニールびんに入って、スーパードで50円程、今、為替レートは千ウォンが一六〇円程度、一度、見てほしいのは地下鉄。どの駅もすくすくきれ、神戸の地下鉄よりきれい。スタンディンググラスの天井やら、レリーフなどがあり凝っている。デートの待ちあわせにプラットホームが良く利用されているとか。韓国文化に触れるのに最も良いのは礼智院、韓国の文化センター的役割をしているところで、外国人子女にも門戸を開けて

いる。個人で講習を受けるのは難しいですが、政府要人の奥さんなどは良く表敬訪問しています。10人以上のグループで事前に予約しておけば、書道、生花、着物着付、料理、結婚の風習とかの講義レッスンが受けられます。

市内には、景德宮とかの歴史的名所旧跡もありますが日本の京都、奈良の神社とそっくりであまり感動はない。同じ文化ルーツを持つこの国がどうしてこんなに言葉が違うのか不思議な気がします。さて、次に身近かなのが香港、航空券代7〜8万、パッケージツアーでも同じくらい、ホテル代が高くなって3泊4日の一流ホテルでの9万円位。一年中温暖で、韓国とくらべると人間もおっとりしている。大阪から3時間半程、キャセイ航空、日本航空が便利、その他日本アジア航空の台北経由、大韓航空のソウル経由が穴。席がとれない場合やむなく大韓航空でも行けます。香港といえば、中華料理ですが、一人旅のときは西洋料理の方が無難、量が多くて食べ切れないから。香港で行ってほしい所、買物だけでなく、香港島の裏レパルス湾。映画幕情のロケ地で白浜海岸のような静かな入江があり、高台に昔のレパルスベイホテル、今は「リド」というフランス料理店に変わっている。コロニアル風の宮殿跡が残ってムード最高、予約が必要ですが、コースベイからタクシードで20分程、高速道路を通り、2千円程。その先1km程に、スタンレーマーカーケットがあり、ここも輸出専門の格安ショッピングゾーン、近くに刑務所があり、静かな香港の一面があります。東南アジアで一番ハイカラな街はやはりシンガポール、自由貿易港でもあり政治が安定しているので、治安もいいし、商品の質も一番いいように思えます。ホテルも建築ラッシュで次々と新しいホテルが建ち、香港よりもホテル代は安い。街全体、蘭の花がいたる所に見られ東洋の真珠というのにはむしろシンガポールです。印象に残っているのは、アトランティスというデイスコ、ロスオリンピックのプロデューサーが設計したデイスコホール、ハンドクラフトセンターのとなりにある、アジアの熱気がある。

★神戸っ子の国際派がガイドする★

海外旅行を 10倍たのしむ

★北川式海外出張法

北川 勲 （大同通商株式会社取締役社長）

昭和32年にエレクトロニクス専門の輸出商社を設立して以来、今年の6月で創立満30周年を迎えました。昭和39年に初めてアメリカを回ったのが最初の海外旅行で、それから現在まで商売柄随分とアチコチ世界各国に参りましたが殆んどが商用で、「海外旅行を10倍楽しむ方法」という点ではどれだけお役に立つかわかりませんが、神戸には貿易関連の会社も沢山あり愛読者にも少しはご参考になると思われる私の海外旅行法をご披露することに致しましょう。

(一) 海外旅行ツアーのスクラップと自家製旅行マップ
各新聞の大手旅行社の海外旅行ツアー募集広告を平素からスクラップしておき、海外出張が決まると自分の行先の大体70名位をカバーするツアーを選定して、そこからハミ出す行先だけの別売航空券を購入します。

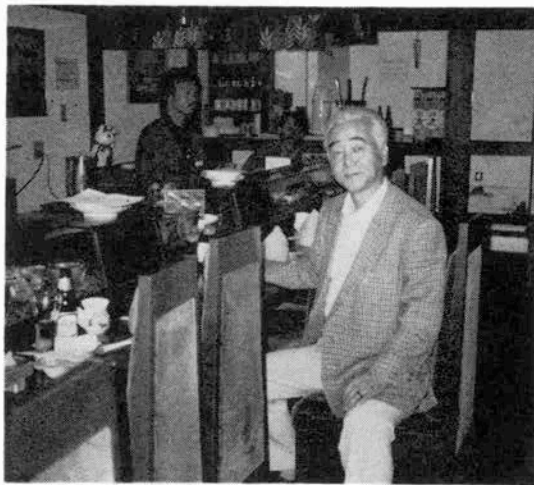
最近のリクルートから出ている「エイビールード」(定価三〇〇円)も併用していますが、手許にある9月号だけでも全二、〇一〇コースがカラーで六六〇頁、大いに役立っていますし、暇なときにページを繰っているだけでも結構楽しめますよ。

(二) アポイントが勝負

過去数十回も海外へ出ましたが一回あたり平均して10

日間で、世界一周した時でも半月以内で済ませましたが同業の方々の最低3倍の訪問先をこなします。これも事前のアポイントを完璧にやっておくからで、私の海外出張は出かける前の方が超多忙で社員もネをあげる位です。余談になりますが、予約なしに訪問し何時でも会ってくれるような相手から大した注文が取れた記憶がありません。

(三) 行程表は一枚に



アメリカ・サンディエゴ市 日本料理店のスシ・バーにて筆者

A 4 版の白紙に全行程（フライト便名・発着時間等）を地図式に書き込み、ホテルの電話・テレックス・留守中の連絡先に至るまですべて一枚に仕上げておくのがコツで、社員の出張の場合でも作らせますが帰社しての第一声は決まって「アレは便利でした！」

四 大事なモノは肌身はなさず

パスポートと現金位は皆さんご承知のことですが、仕事上の必要書類は全部コピーで縮小して上衣の胸ポケットに入れてあります。トランクは初めからアテにしない位の心掛けで旅装を整えることにしています。私の愛用品はミニ手帳（5×3.5センチ位）で上衣の襟裏ポケットに入り機内食をとりながらでもメモることができます。

(四) カメラはバカチョン

若い頃は私も給料の数カ月分をはたいて高級カメラを持ち回りましたが、10年前から小型のバカチョンに替えました。両手はいつも塞がっている上に海外でのシャッターチャンスは非常に限られていますし、カメラの性能も抜群に良くなりましたから。フィルムは例え1週間の旅行でも最低15本（36枚撮り）を用意します。最近はや



陽光の国、メキシコ・ティファナにて筆者

高で海外の方が安く買えるなどと物知り顔に言う人ほど、現地で折角のシャッターチャンスに大汗かいて売店を探し回っているのを始終見かけます。

(四) いつものクスリも忘れずに

ご承知のように欧米は医薬分業で、医者は処方箋を書くだけで、薬局も日本のようには見当りませんから、飲みつけの薬は必ず持参しましょう。私の場合は鎮痛剤・マイシン・下痢止め・軽い睡眠薬等を出張の都度処方して貰い、上衣・手提鞆・トランクの順に分けて入れておきます。殆どが飲み残りますので、帰国が近づいた行先きのホテルや空港の方々からチップ替りに差上げることになっていますが、こちらが恐縮する程よろこばれます。

(五) 金はタツプリ（使わない）

命の次に大切なのは勿論お金ですが、私の場合は何時・何処で何があっても対処できるように、大体必要額の二・三倍は旅行小切手にして用意して行きます。えてして海外にロマンを求めがちですが現実はずっと厳しく、「金が頼り」ということが段々わかる様になってきました。それに余裕を持っている程、案外無駄使いはしないものですから。

(六) 男は度胸、海外では英語

私は若い頃に独立するまでの8年間、スウェーデンの機械輸入商社に勤務しておりましたし、創業してからも30年間、商売柄とはいえ「外人」と「英語」だけは意識したことがあります。語学力が増してくる程海外旅行も、より充実し一層素晴らしいものになるというのが私のアドバイスの結びです。昔と違って英語会話の勉強も各種の立派なカセットが明快な教本とセットで発売されていますし、長いフライトの間に見せられる退屈な機内映画の上映時間なども語学力アップの貴重な自習時間です。

それでは皆さん、お元気で楽しい旅行にお出掛け下さい。ツアアの途中は大概消えておりますが、往復の機内の最尾席あたりに座っているロマンズグレー・84キロ・178センチのオジさんが私です。

★神戸っ子の国際派がガイドする★

海外旅行を 10倍たのしむ

★アルザスを訪ねて

三木

重昭〈コインタナシヨナルサブライ
ヨシ代表取締役〉

数年前、国際青年会議所（本部・マイアミ）の役員として、2年間出向し、加盟国105カ国の半数を国際会議等で歴訪する機会を得ました。その前後、仕事柄各地に出張しておりますが、飛行機、ホテルの手配はほとんど自分でやり、又それが大変楽しみの一つでもあります。現地から現地へとの移動が多く、時にはレンタカーで、汽車とバスを利用したり、全く不定期旅行ともいえます。今回特に御紹介したい旅行は数ある中で、フランスのアルザス州キンツハイム村とコルマールの町であります。たまたま私の次男（中二）が留学している学校があるので、私も数回訪ねています。ライン川とボーージュ山脈に挟まれ、西に接する丘陵地帯ロレーヌ地方はフランスとドイツの抗争の的として戦争のたびにドイツ領になったり、フランス領になったりした歴史があり、ドレーの小説（月曜物語）の中的一篇「最後の授業」の舞台としても有名です。ロレーヌの西にはシャンパニュ平原が広がり、名酒シャンパンの故郷でもあります。フランスのバーゼル空港より車で40分ぐらいの町で、コルマール駅は、昔のフランス映画の世界に飛びこんだ雰囲気です。その構内のバーで飲むワインも最高です。一杯50円位です。ボーージュ山脈沿いにある中世の町コルマール

は、四季の花に彩られた美しい運河の町としても有名で、市内のウンテルリンデン美術館には、グリユーネバルトの傑作「イーゼンハイムの祭壇画」があります。この街は迷路のような中世そのままの感じがします。石だたみの敷かれた道は馬車が走ればびたりです。小さな街ですが、美味しいレストランがたくさんあり、大変食事をするのが楽しくなります。一面ブドウ畑に囲まれたこの町でアルザスワインは最高です。キンツハイム村はコルマールから車で10分位で、息子は自転車で行き来して



筆者 近影

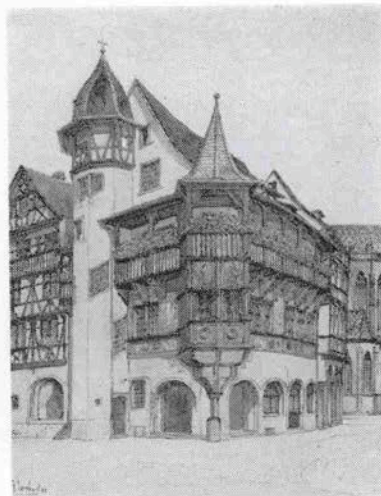


Colman（フランス政府観光局提供）



アルザスのツクヴィール (フランス政府観光局提供)

おり、休日は川で泳いだり、ブドウの収穫期に手伝って、ワインを御馳走になったりして、春は青々とした樹々は太陽を浴びて黄金に輝き、芝生には、リスやモグラが顔を出し、お腹いっぱいのおくらんぼをほうばり、秋には梨が食べ切れないぐらい穫れるすばらしい村です。ブドウ畑の中にいくつかの教会があり、いっせいに鐘が鳴ります。本当に心が洗われる静かな村です。ぜひパリに行かれたら、日帰りでも行けますので訪ねてみて下さい。



COLMAR: "Maison Pfister"



Wissen Bowg (フランス政府観光局提供)

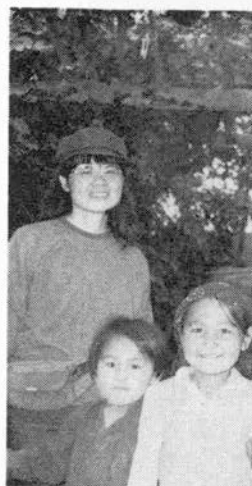
★神戸っ子の国際派がガイドする★

海外旅行を 10倍たのしむ

★現地にどっぷりつかる

石東 直子 ハフリー都市プランナー

中国はさまざまな顔をもつ。いろんな情景をもっている。行くたびに新しい発見がある。新鮮な体験ができる。つまり、いろんな旅の要求に応えてくれるふところを持つている。一回めの旅はバックのツアーでもいい。しかし、必ず行きたくなる二回目からの旅はバック・ツアーを脱しよう。初めての旅でも、一日か、半日でも、バックを脱すれば、旅を三倍は楽しんだことになると思う。近代化を突っ走る大都市については、日本にも情報がたくさん入ってきており、旅行社もそんな近代化の姿を見せるコースを組んでいるが、あまり面白くない。しかし、そんな大都市でもメインストリートをそれると全く違った顔をもっている。従って、少しの自由時間しかと



ウィグル族の子供たちと
ウルムチで

れない場合は、まず自由市場に行ってみよう。自由市場はどここの町でもほとんどある。ホテルで尋ねると、近くにある二、三カ所を教えてくれるだろう。野菜、魚、肉、鶏などの食料品以外に日用雑貨、衣類、おもちゃ等々なんでも売っている。自由市場はひなびた地方に行くほど面白い。その地方にしかない珍品を見つける。見たこともない野菜、野菜とは想像だにすらできないような野菜、「へー、これがお豆腐?」と思わずつついて確かめたくするようなお豆腐とその売られ方、もちろん場所と季節がグッドタイミングであれば、たわわになった枝つきのレイシーにもお目にかかれる。銀耳（白きくらげ）なんて、ホテルの食事には出てきても、その原形は自由市場でなければ、さわって確かめられない（この銀耳は中国では高級食品で漢方の薬食であるが、日本流にお浸しにして三杯酢で食べるととてもおいしい。くらげのようにコリコリした歯ごたえで酒のさかなにもよくあう。中国の人はこんな食べ方をしないが、私が考案した食べ方である）。自由市場の人々は実に気さくである。中国語が分からなくても、筆談で食べ方は教えてもらえる。鶏は生きたまま元気な鳴き声をあげながら売られている。あの引き締まった雌鳥がええと指さすと、そのまま足を縛って買われていく。その場で首をひねって毛をむしって、大なべの熱湯にじゃぼんと入れてゆでてもらえるような場面もある。朝に強い人は朝市がいい。つい

で、朝市のまわりにはいっぱい出ている露店の食堂で、現地の人々に交じって朝食をすますのもいい。自由市場には所によっては仕立て屋まである。朝頼めば夕方でき上がる。私はシルク専門店でシルク地を買ってきて、自由市場でパンツを何本も作った。シルクのパンツがTシャツなみの値段で作ってもらえる。日本からパターンをもつて行けば、言葉が通じなくても好みのスタイルのOKである。

各地の自由市場めぐりのツアーもいいと思っている。ウルムチ地方に行けば、そこはもう異国である（中国であって中国でない）。売ってる物も違う。現地の人の顔、姿、言葉も違う。何十種類もの香辛料を見つけると、思わず買ってしまう。私はトルファンの自由市場で、手織りの羊毛のカーペットを買った。色、デザインともまさにアラビアじゅうたんである。おじさんとの駆け引き



絵に画いたような普陀宗嘉の店

で、初めての言い値の半分近くにしてもらえた。北京や上海の百貨店では見つけることができない代物である。南の地の自由市場に行くと、竹で編んだ様々な品物がある。自由市場めぐりは、現地にどっぷりつかった気分になれる。中国にいるのに、中国以外の国を旅しているような気分になるときもある。

夕方、二、三時間のフリーな時間が取れた人は、旧い住宅地を散策するのもいい。北京なんかの大都市でも大通りから一筋入ると、胡同と呼ばれる横丁の住宅地がある。この解放前に建てられた住宅地は清掃がゆきとどき、静寂で、家々の門構えは一つ一つが趣きのあるデザインで、昔を忍ばせてくれる。上海のは里弄と呼ばれる連続建ての低層住宅地であり、ここは人々の活気と古い住宅地がびったり合った実に楽しい情景である。また主都市に残されている旧租界地の住宅地もいい。中国にありながら世界の各地の住宅地の散策ができる。今これらの住宅地はもちろん中国の人々が住んでいるが、最近建物の修復も徐々にすすみ、町並みとしての景観もよく、絵になる散策道である。住宅地の散策は、中国の人々のありきたりの日常生活に接することができ、中国と日本の生活文化のよく似ている点、違っている点など発見でき興味深い。また思わぬきっかけで、住人たちと心が通い合い、いい友達ができる時もある。彼等は実に人なつっこく気さくである。おおらかである。

中国といえば直ぐ思い浮かぶグルメの旅もいい（これについては今さら特筆する必要もなさそうである）。

以上のような気ままな旅の情報を提供するガイドブックはなさそうなので、旅行社をうまく使おう。中国旅行といえばバック旅行しかないと思わないで、自分の見たいもの、行きたい所、旅先でしたいこと、食べたいもの等々をまとめて、中国旅行専門の旅行社に相談すれば、好みのコースを組んでくれて、現地のガイドさんつきでの旅もできる。二度めからの中国の旅は一度行ったことがある国ということで、なじみがあり安心感が持てるが、旅の仕方によっては新しい体験ができるので、違う国への旅に出かけるというトキメキがある。（中国での面白い体験のさまざまは、筆者の「好きやねん中国―私の中国 喜・怒・楽日記―学芸出版社」をぜひ読んでみてください。）

★神戸っ子の国際派がガイドする★

海外旅行を 10倍たのしむ

★街並の風情と

ウォータフロントの美しさ

板東 慧

〈山都大学国際関係学部教授
社会生活文化研究所長〉

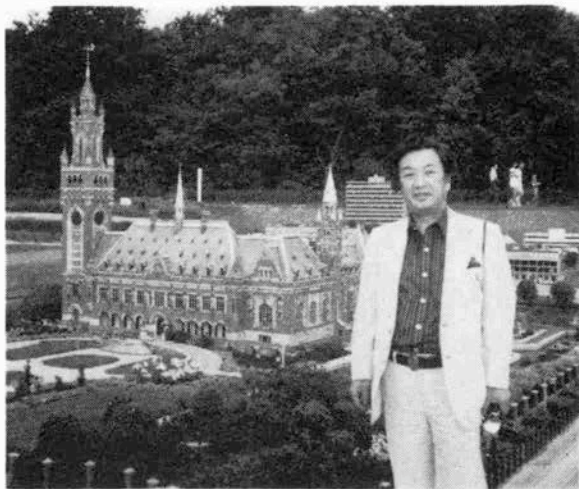
オランダは神戸とも縁が深い。観光目的よりも、中継地として、アムステルダムに立ち寄ることが多い。そこで案外知られていないオランダを紹介しよう。

アムステルダムは、運河の美しい古くからの港町でわれわれには馴染みやすい。アムスの主な観光ポイントとしては、歴史の重みを感じさせる王宮とその前のダム広場の建築群・東京駅のモデルで豪華な中央駅・レンブラントなどの名画と伊万里やデルフトの陶磁を始め世界有数のコレクションを持つ国立博物館・アンネの家などがある。また、ゴッホの作品と浮世絵を含む彼のコレクションで名高いゴッホ美術館や音楽愛好家には見過ごせないコンセルトヘボウのホールなどが都心部にまとまってある。

そして、何よりも、ここは濃い赤煉瓦で五階建てに統一され、その上に飾られた屋根部屋をもつ美しい街並と橋を歩いて楽しみ、運河巡りの船上からも楽しめる街であり、夜はまた、飾り窓周辺も観光コースになる。一見、なれない日本人には夜の街はあぶなげに感じるが、人通りの多いところを普通の注意をして歩けば、ヨーロッパの首都では最も安全といえる。

街頭オルガンや大道芸人、のみの市、骨董品街など、ぶらぶら歩きの楽しい街で、堀出しものも多い。

アムス以外でぜひすすめたいのは、列車で四〇分のハイクである。ここは、白っぽい優雅な建物も多く政治の中心でアムスと異なった風情がある。また、平和宮という煉瓦の豪壮な国際司法裁判所があり、世界の美術品を



マドローダム・平和宮のミニチュアの前で筆者

インテリアに使った内部も一見の価値がある。日本人の判事もいて偶然に会えることもある。ハーグには、いたるところに王家や貴族などのコレクションを邸宅で展示した美術館や郵便・人形・衣装など数多くの博物館があり、散策にあきない。

また、この郊外には、二万平方メートルの敷地にオランダの有名な建物や街並を二五分の一に正確にミニチュア化したマドローダムという世界的な野外博物館がある。さらに、列車で一〇分、ヨーロッパでもっとも古くて有名な陶器の街デルフトがある。さらに、近くにはヨーロッパ最大で神戸の姉妹港ロッテルダムがライン河口にひろがっており、城で有名なユトレヒトは一時間程度、マーストリヒトは三時間でベルギー国境の近くにあり、共に美しい街である。

風車はどこでどこで散見されるが、ロッテルダム近くのキンデルダイクでは、広漠とした農地に十九基が集中して残る壮観な風景を見ることができ、

アムスを起点にドイツへは、中央駅から国際急行で国



オランダ・イメージの風車が残るキンデルダイクの農地

境周辺の風物を楽しみながらケルンまで三時間、ハイデルベルクやライン下りにつながる。また、フランドル地方を列車かバスで四時間、アントワープを経て、ベルギーの古都ブルージュへ行ける。ここはタイムトンネルで中世にたどりついた思いのするヨーロッパで最も優雅な街である。

たべものは、率直にいつてオランダ独自のものは特にない。豆と肉・野菜などの煮込み風のエルテンスープに特色がみられる程度である。

むしろ、ここでの名物は、ライススターフェルと呼ばれるインドネシア料理で、スパイスのきいた焼鳥・春巻・酢豚・焼きそばなどで、ほとんどは中華料理店を兼ねている。それと、夏場に屋台がでて食べさせるハリング(にしん)で、生臭い感じがするが、大変うまい。

これは、塩にしんの塩抜きしたものを、尻尾をもって上を向いて食べたり、ホットドッグなどに使うパンにバターや玉ねぎのミジン切りをはさんで食べる。にしんは酔っけもうまい。その他では、ブローチェといわれる何でもはさんでたべるサンドイッチと豊富な種類のチーズ・ハムなどである。もちろん、日本料理店もあり、サーモンの刺身・にしんの塩焼や魚ちりなど、現地の材料を使った新鮮なものがある。

買物は、木靴や・民族衣装・民俗人形やデルフト・銀細工・ガラス製品など民芸品に事欠かぬが、専門店に日本に輸入されていないものを見つけることが必要である。いうまでもなく、ダイヤモンドはここが本場である。

靴・ハンドバッグなどの革製品や雑貨で日本であまり知られていないヨーロッパブランドの良いものを見つけるのも楽しい。ダム広場に面したバイエルンコルフという百貨店は、このような高級品や子供の絵本などもある。アムスのスキポール空港は種類の豊富さでもヨーロッパ最大で、バレンタイン三〇年などという銘酒も揃う。ここでは秤売りで別包装のチョコレートが土産として最も値打ちものである。

★神戸っ子の国際派がガイドする★

海外旅行を 10倍たのしむ

★もう一つの英国

スコットランド

荊屋 昭臣

△郵船航空サーピス勤務▽

スコットランドと聞いて、ウイスキー、ゴルフを思い浮かべた方はマル。ネッシー、タータン、バグパイプを思い浮かべた方は二重マル。「懐かしい音(『螢の光』の原詩)」で知られるR・バーンズ、「アイヴァンホー」のW・スコット、「宝島」のステイブンソンとくればこれはかなりの英国通、いやスコットランド通の方といえるでしょう。

ご存知のように英国は四つの国の連合王国です。その中のブリテン島の北半分近くを占めるのがスコットランドで、同じ島内ながら祖先を異にするイングランドと一八世紀初頭に合併したばかりの国なのです。

お互いに別の国と称する感覚も、英国の血塗られた歴史を辿れば日本人にも納得できるような気がします。ここでは詳しい歴史は省略してスコットランドのお話を進めましょう。

ロンドンを中心とするイングランドとくらべて、馴染みの薄いスコットランドですが、これがなかなか興味深い土地なのです。

北部スベイ川流域のウイスキー蒸溜工場で樽出しの真正銘の原酒を試飲するのも左党の方にはこたえられない

いしみになるでしょう。各地のツーリストインフォメーションで見学できる工場を紹介してもらえます。北部のくびれた地形の根元にあるのがインバネスの町、言わずと知れたネス湖観光の基点です。

先日の大々的な科学調査の結果、存在が疑問視されているネッシーも、地元では怪物博物館まで建てられて観光の目玉商品になっています。

とはいえ、ネス湖西岸の廃城ウルハート城跡からビート炭で濁った湖面を眺めていると、今にもネッシーが姿を現わしそうな気がしてくるから不思議です。

北部ではもう一カ所ぜひ立ち寄ってみたいのが、ネアンの町から少し内陸部に入ったコーダー村にあるコーダー城です。名前だけではピンとこない方も、数年前某インスタントコーヒーのCMで優雅にコーヒーを飲んでいたらドルフ殿下の居城といえbaumおわかりでしょう。



ローモンド湖近く
CROFTAMIE INN にて

二五代目ルドルフ・コーダー伯爵が現在も住んでおられます。伯爵家のプライベートに触れる部分は未公開ですが、実際にCM撮影をした執務室や、その昔使われていた台所等お城内部は自由に見学することができます。

城門を入って左手のレストランで、アフタヌーンティーを味わいながらマクベスの時代の幻想にひたってみるのも良い思い出となるでしょう。

次はこの国にある四〇〇以上のゴルフ場の中でも日本ですと知られた、ゴルフ発祥の地セントアンドリュースのオールドコース。ゴルフ好きの方ならコースに沿って歩いてみるだけでも価値があるでしょう。勿論プロショップがありますので記念のお土産にはこと欠きません。ただ、購入の際には必ず商品をよく確かめて下さい。最近では東南アジア製の品物も見受けられます。(オールドコースをはじめとしてこの国の有名コースは一年も前から予約されており、プレイをするのは非常に難しいので、あらかじめセットされたバック旅行に参加されることをおすすめします)。

そしてスコットランドの首都エジンバラ。

中世の街旧市街と近代の都市新市街とが調和を保つエレガントで美しい街です。新旧市街を見下す岩山の上に中世からの歴史を刻み込んだエジンバラ城がそびえ立つ様は、かつての首都エジンバラの繁栄を彷彿とさせてくれます。



ハイランド地方 ALNESS の
STATION HOTEL の前にて

スコットランド最大のイベントは、毎年八月上旬から二週間にわたり催されるエジンバラ国際芸術祭です。音楽、演劇、バレエ等、世界各地からの来演者のプログラムに加えて、絵画展、映画祭が開かれ、ストリートパフォーミングのデモンストレーションが市内いたるところで繰り広げられます。この芸術祭期間中、日曜日を除く毎夜、エジンバラ城門前広場で催される「ミリタリータトゥー」は必ず見ておきたいものです。スコットランドの軍服に身を包んだ軍楽隊の分列行進が夜間照明に浮かびあがる一大スペクタクルは、壮観の一言に尽きます。

スコットランドでは、寒さの厳しい冬を除けば、いつでも旅行シーズンなのですが、とりわけ日照時間も長く、気候も安定してくる6月から8月にかけてが最適といえるでしょう。それでも折りたたみ傘や、レインコート、そしてセーターは必ず用意して下さい。スコットランドは樺太より北に位置していることをお忘れなく。

旅の足は鉄道やバスがありますが、レンタカーを利用するのも良いでしょう。日本と同じ右ハンドル左側通行ですし、道路も完全舗装されています。道路が狭いことを除けば自然の中の快適なドライブが楽しめます。

お買物はやはりウール製品をおすすめします。タータンの生地は女性のスカートに最適、カシミヤやシェットランドのセーターも豊富に揃っています。他の都市とくらべると少々高くなりますが、品質や品揃えを考えるとエジンバラ市内プリンセスストリートの専門店やデパートで購入されるのが良いでしょう。

スコットランドには殺伐とした日常に疲れ切った日本人の心をホッとさせてくれるものがあります。それはきつと複雑な歴史と自然との中で生き抜いてきた屈強さに裏打ちされた人々のやさしさ、あたたかさの故なのでしょう。

観るだけでなく感じさせてくれる国、英国の中のもう一つの英国スコットランド。自然と、やさしい人々に触れ合う旅に出かけてみてはいかがでしょうか。

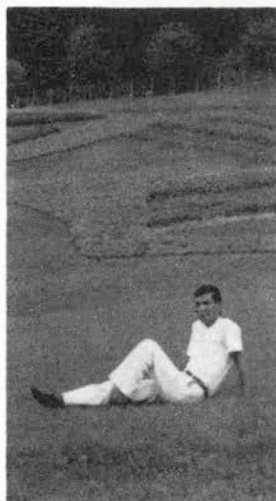
★神戸っ子の国際派がガイドする★

海外旅行を 10倍たのしむ

★シュバルツバルド(黒い森) 森 章

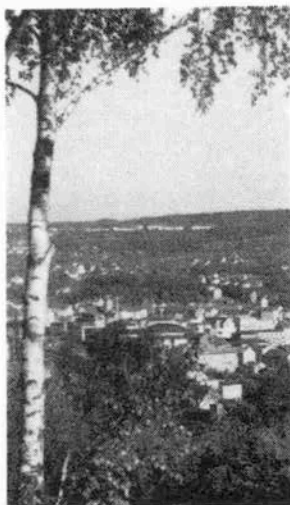
▲森真珠株式会社営業輸出販売部長▼

ギンター・ヴォルフ、47歳。私を案内してくれた友人である。彼にはスリムなドイツ美人の妻と14歳になるクラスの人気者の息子がいる。ギンターはドイツ南部の美しい都フォルツハイムにアッパミドルの平均的なドイツ人の常として600㎡の敷地に一家三人で清潔な生活をエンジョイしている。シュバルツバルド(黒い森)はフォルツハイムから始まり、バーゼルまで250kmの広大な針葉樹林帯がドイツ人の心の拠り所となっている。「黒い森」は森林浴の源であり、休日にドイツ人はこの森に入り一日中新鮮な空気をいっぱい吸い込み、家族との一時を過ごす。4時のティータイムには森の中のテラスでブルーベリーと生クリームのケーキに散策の疲れを癒す。黄昏と共に森を流れる冷い風が足元を通り



バーデンバーデンの花の公園にて

抜ける。「黒い森」は人の心をメルヘンの世界に導く不思議な魅力を持っている。フォルツハイムは、この「黒い森の砦」という語源の通り森の入口に位置している。2000年の歴史のあるゴールドシュタット(黄金の都)フォルツハイムは金細工、時計、貴金属の都であり、一



「黒い森」の眺望

地方都市として独自の文化を培って来た。このフォルツハイムへはフランクフルトから空路45分、バーデンヴィルテンブルグ州都のシュトゥットガルトからアウトバーンで1時間、バスと列車で1時間半。交通の要所カールスルーエとシュトゥットガルトの中間に位置する人口12万の絵葉書より美しい公園の都である。ドイツの歴史は重苦しい。ドイツの音楽、絵画、文学、哲学が示すように総てが正統派であり、重戦車の響きがある。そのドイツ国内では地方都市が固有の文化と伝統を大切に守り、その独自性がドイツ人気質として現代まで継承されている。フ

オルツハイムの文化はこの「黒い森」から生まれた。ドイツの南部でも冬は厳しい。10月には初雪があり、真冬には零下20℃にも達する。春は5月に始まり、それが夏になる。寒暖の差の激しさ、そして日照時間の長さが都全体を花園にする。一区画600㎡の住宅の窓にはベ、コニア、ゼラニウム、庭にはバラ、チュリリップ、野原にはタンポポのジュータン、梨・リンゴの真っ白な花、そして中央を流れるナゴールド川には鱒の群、おしどりと鴨がのんびり泳いでいる。教会から流れるグロッケン（鐘の音）総てが絵になる。フォルツハイムから始まる「黒い森」は奥行きが深い。詩人ヘルマン・ヘッセの深い森に包まれた谷あいの村カルヴ・カールスルエの池の公園、バーデン・バーデンの広大な花の公園、シュツ



中央を流れるナゴールド川

トガルトの公園、それぞれの公園にはボート、モノレールやミニ鉄道で園内を一周出来る設備が一つはある。仕事を離れた人々の憩いの場、ヴィルドバッド、バッドリールペンツェル、フロインデンシュタット等リタイヤーした老夫婦が散策している姿は森の中に溶け込んでいる。森が人間を飲み込み、自然に戻る事を示唆している。そして森の中に点在する小さな村々にはレストラン付のホテルがある。州によって夏休みをずらしている合議的なドイツでは宿の予約はいらない。道沿にフライイ（空室）のサインがやたらと目に付く。

ドイツのホテルはどのような田舎へ行っても清潔できれいだ。大きな枕とゆったりした羽根蒲団は安眠を約束してくれる。森には自然を素材にした料理がある。白いアスパラガスは二日酔い良い。炭焼のマスにレモン

を掛けた塩味の野趣料理。日本人好みのシュバルツバルダー・シンケン（生ハム）タマネギの風味の美味しいツビーベル・ズッペ（オニオングラタンスープ）、ヴィルド（鹿肉のステーキ）、スベッツレ（キシメン風ヌードル）、その他森の料理は沢山ある。デザートがおいしい。生クリームが多い事、木の実、果実等、あまずっぱい味はブラックコーヒーに合う。テーブルのセッティングは雰囲気がある。木立の下、ギヤンドルを明かりに暖かい料理とワインは夜の早い森の冷い風を心地良くする。雰囲気をお大切に食事の習慣は、家庭でも重んじられる。母親から娘へ、娘から子へと家具・食器と共に家庭の味も引き継げる。その家ならではの味である。ドイツではインスタント食品は普及しない。独自性をガンとして守り通すドイツ人の気質は、過去の歴史の中でも変わらない。それがドイツ人の特性として通じている。今後、ますます国際社会で生きて行かなければならない我々日本人にはどのような対応が求められるのであろうか。株と



緑や花に囲まれた「黒い森」の家

土地、そしてゴルフとマージャンが共通の言語圏からは重い人間は生まれない。経済的にはアメリカ、日本に差をつけたれたヨーロッパの人々の背筋は今でもシャンとしている。緑の深さと重さが人々に考える時間と場所を提供している。「黒い森」は、ドイツ人の貴重な財産の一つとなっている。

□特集／国際派神戸っ子が教える海外旅行を10倍楽しむ方法

海外旅行へのワンポイント・アドバイス

あなたの旅行がさらに楽しくなります—

〈申し込み〉

まず、旅行代理店の窓口へ。各社とも得意とする分野を持っているので、予算や日程などを細かく相談する。

〈渡航手続き〉

海外旅行に必要なパスポート（旅券）、ビザ（査証）などの手続きは旅行代理店にまかせる。その場合、戸籍抄本一通、住民票一通、パスポート用写真（5×5センチ）二枚（国によっては三枚）、印かんおよび官製ハガキが必要。

〈出発の前〉

通常、出発の二週間前から詳細なスケジュール表や宿泊ホテルリストなどが旅行代理店から届く。

旅券や入国査証など必要書類、持物、服装など

を再チェックする。

〈外貨購入〉

旅行中に必要な外貨の購入は、外国為替取り扱い銀行で出来る。外貨は現金は現金で持ち歩くよりも、たとえ紛失しても便利なトラベラーズチェックと現金に分けて所持した方が安全である。

〈その他〉

機内に預ける荷物（スーツケース）には貴重品、外国製品、これらものなどは入れないように。

また、海外での万一の事故や病気、盗難などにそなえて、海外旅行保険に加入するのもいい。海外旅行保険の掛け金や保険内容などについては、各旅行代理店、各保険会社まで。

海外支店網、日本一の旅行社

J. T. B. 日本交通公社

神戸長田支店

支店長 杵 島 浩一郎

神戸市長田区大橋町 6-2-3

TEL (078) 611-2666~8

神戸で1番、TOP NOTCH

**(有) 神戸トップナッチ
カンパニー**

代表者 新 井 和 宏

神戸市中央区琴崎町 5-3-5

グリーンシャポービル

TEL (078) 242-2695

中国旅行を
ニーズに応じてアレンジ

(株) 友誼旅行社

代表取締役 陳 東 華

神戸市中央区下山手通 3-10-9

TEL (078) 392-4781

新しい関西を創造する総合雑誌

オール関西

好評発売中 ¥580 (年間購読 ¥8,000) 新年号

★新春ビッグインタビュー

井上 靖



「シルクロードと私」

関西百撰会ギャラリー

老舗がお届けする買物情報

上方味覚紀行 「阿み彦」 楠本 憲吉

程さんのうんちく料理塾

「中国風寄せ鍋」 程 一彦

特集1:これぞ関西ブランド

関西のエスプリ100/関西ならではの優れた「ブランド」を探る。関西各界の方々による「関西ブランド」100

特集2:冷泉家の御物

特集3:古典の世界若手群像

特集4: '88初詣ガイド

〈好評連載企画〉創造の世界「川崎重工業」・名医に聞く「歯の疾患Ⅱ」・孟さんの新風俗記・大阪の曲がり角・玄妙禅談・男の後ろ姿、わが親父論(株)カネイチ中本城治社長・カルチャーカレンダー・住宅情報・日本の宝との出会い・当世川柳ばなし・BOOK REVIEW・タウンジャーナル・パーティー&シンポジウム・オラクル1月の運勢・ライブサロン・ZOOMUP・友人交歓・住まいはアトリエ・パーソナリティー87・グループ登場「ダッセグループ」・ビジネス最前線・カラートピックス「世界歴史都市博」

■オール関西株式会社/〒530 大阪市北区曽根崎2丁目15-24 曽根崎ビル4F ☎06-363-1255